

H29年漁期の底びき網漁業の漁模様

今回は、平成29年漁期（平成29年9月～平成30年6月）の本県沖の底びき網漁業（沖底・小底）の漁模様について報告します。漁獲量の集計は漁獲管理情報処理システムで行い、県内水揚げ分について集計しました（銚子水揚げ分は含まれません）。

1. H29 漁期の県内水揚げは、約 2,300 トン、8.7 億円

平成29年漁期の水揚げ量は約2,300トン、金額は8.7億円となり、前年より約1割減となりました（図1）。震災以前は約2,000トン、約7～8億円前後で推移していましたが、震災後は約2,500トン超、9億円以上の水準にあり、H29年漁期はその水準を若干下回りましたが高い水準は続いています。

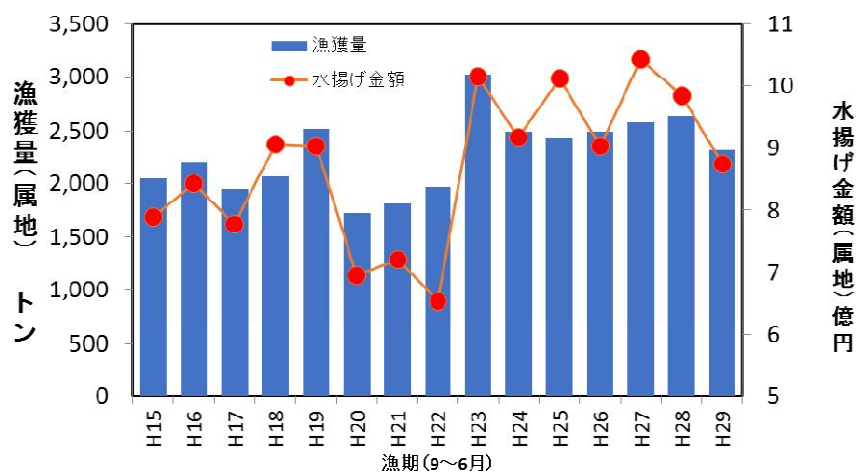


図1 底曳網の漁期別漁獲量と金額

2. 漁獲量の多い魚種

平成29年漁期に漁獲量が多かった上位5魚種は、1

位ヤリイカ 439 トン（前年 406 トン、2 位）、2 位メヒカリ 271 トン（同 513 トン、1 位）、3 位アナゴ 184 トン（同 248 トン、3 位）、4 位ヒラメ 181 トン（同 245 トン、4 位）、5 位ヤナギダコ 173 トン（通称みずだこ、同 129 トン、5 位）でした（図2）。昨年と比べるとヤリイカ、ヤナギダコは増加、メヒカリ、ヒラメ、アナゴは減少となりました。金額で見ると上位5魚種は、ヤリイカ、メヒカリ、ヒラメ、ヤナギダコ、アナゴの順となりました。単価は、ヤリイカは平均420円/kg（H28：650円）、メヒカリは520円（H28：300円）、ヒラメは690円（H28：720円）、ヤナギダコは260円（H28：185円）、アナゴは240円（H28：270円）でした。

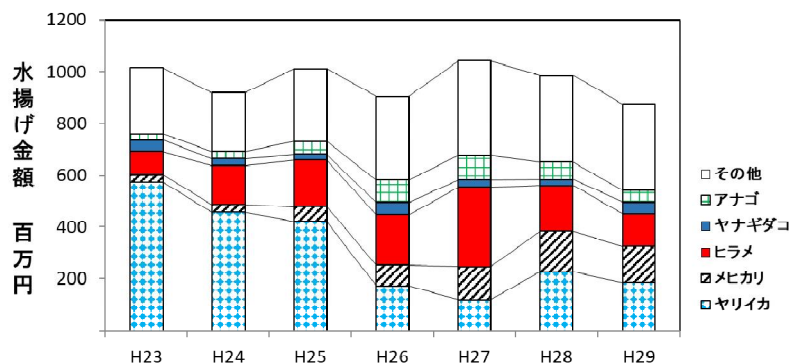
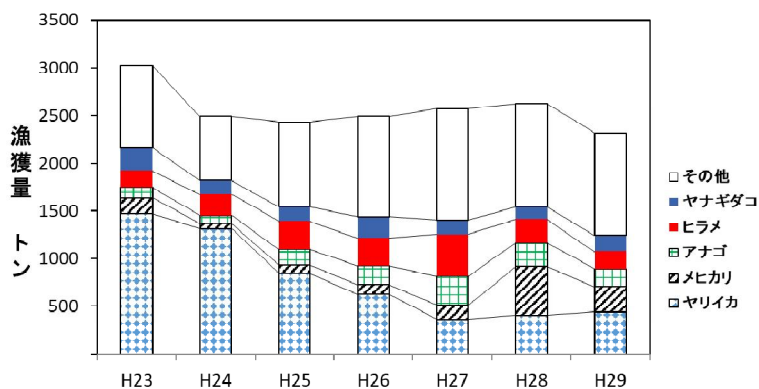


図2 水揚げの多い魚種の漁獲量と金額

3. 東北海域のヤリイカの動向

ここ数年のヤリイカの漁獲量を千葉から宮城の海域で見ると1500～3000トンの間で変動しています（図3）。茨城・千葉県海域で漁獲量が多くなる年は、1月以降に漁獲量が増加し、産卵期の5月頃まで漁が続くときです（図4上の図）。H28、29年漁期は宮城県での漁獲が10月頃から多くなり、1月まで好漁が継続する一方、南部の茨城・千葉では漁獲が伸びず、4月の産卵期まで漁が続きませんでした（図4）。このような好・不漁がどのような条件によって起きるのか、調べてまいります。

（水産試験場 定着性資源部）

次号予告：平成30年7月31日発行の水産の窓は「タックシステムのバージョンアップ」を予定しています。

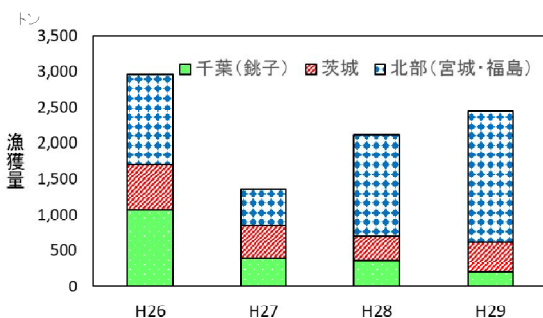


図3 最近の東北海域でのヤリイカの漁獲量

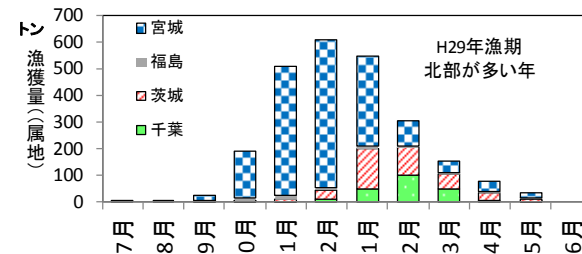
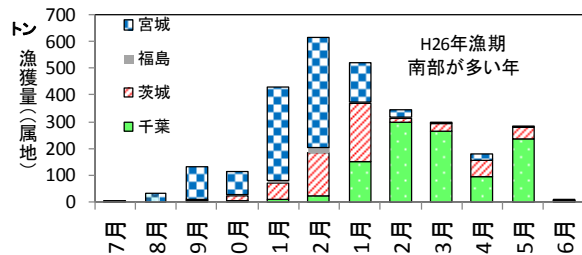


図4 各県の月別漁獲量